



家族のため、自分自身のために。。。 救急安心カードの活用を!!

不意に激しいめまいがして倒れた。ことばを発することも起き上がることも出来ない。こたつの中にあつた夫の足にふれて蹴った。ふだん蹴るなどしたことがない、その私が足を蹴るという行為に、それでも夫は異常を感じてくれない。

手を伸ばせば携帯電話があるはず。懸命に携帯電話を取り、薄目を開けて119番した。間もなく救急隊が上がって来て担架で運ばれ、どうやら救急車に乗つたらしい。たて続けに質問を浴びせられる。「持病は、かかりつけ医は、緊急連絡先は、生年月日は…等々。答えようとしても胸が苦しく頭がボーっとしている。それでも何か答えたような気もする。夫は気が動転していて、しかも私の情報をどれだけ認識していたか…。

普段は元気なのに、救急車に自分がお世話になるなど思っても見なかった。救急隊は、応急処置をおこない、病院を選定しスムーズに搬送するためにも、患者の詳細な情報が必要なのだ。

社協が、この様な時に万全の対策を用意してくれた。「救急安心カード」を記入して手作りの筒の中に入れて冷蔵庫に保管しておく。桂川消防署とタイアップして、急病者宅に向かった時は、「救急安心カードは冷蔵庫にある!!」を推進する。

自分は元気!と想着いても、思わぬ事態は誰にでも起こりうる。社協の推進する「救急安心カードの冷蔵庫保管」を多くの人が利用してほしい。地域から作成の要望があれば、手作りの会と一緒に職員が指導に来てくれるようだ。安心・安全のためにもぜひ活用しましょう!

九郎丸 中野 美智子

